

ガラスの向こうに鹿がいる

奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構

中塚 祐子

A Deer Appears over There

Yuko Nakatsuka

Institute for Research Initiatives, Nara Institute of Science and Technology

後ろから何か近づいていた。もちろん視認はしていた。だが、「それ」はこの場所ではあまりにもありふれた存在であり、もはや風景の一部だった。「それ」は突如として速度を上げ、静かに口を開いた――。

かくしてコート裾は鹿に齧られて涎まみれとなり、後には呆然とする母と私が残された。今のように鹿による観光客の被害が報道されるより前のことである。再び奈良に降り立った私は、そんな10年以上前の出来事を思い出しながら、別の「鹿」を目指した。

～*～*～*～

近鉄奈良駅から南東に徒歩15分程行った所に、奈良を代表する日本酒である「春鹿」の醸造元、今西清兵衛商店がある。明治時代に創業された酒蔵で、春鹿の名前は、春日大社と奈良の鹿から付けられたそうだ。町屋風の建物の中は酒蔵SHOPになっている。(図1) 今回の目当ては、ここで毎年開催される酒蔵まつりである。このイベントでは、限定酒の販売や、日本



図1 今西清兵衛商店の外観

酒の立呑処の出店、地元飲食店の屋台の出店、酒蔵見学が行われる。

イベントは隣の倉庫を開放して行われている。入り口で無料の振る舞いをいただき、中へと進む。会場は想像以上の人で溢れ、立ち呑み用のテーブルはどこもいっぱいである。まずは立ち呑み用の日本酒を手に入れよう。最後尾というプラカードを目印に並ぶと、つづら折りの列がひたすらに続いていた。一時は倉庫の外の道にまで列ができていたようである。注文する酒を選んだり、おみくじの引ける春鹿アプリをインストールしたりしつつ過ごす。(大吉が出ると限定酒がもらえるのである。) 図2は販売所の様子である。残念ながら1種類は既に完売していた。ついに順番が回ってきて、購入したのがこちらである。(図3)



図2 日本酒販売所の様子

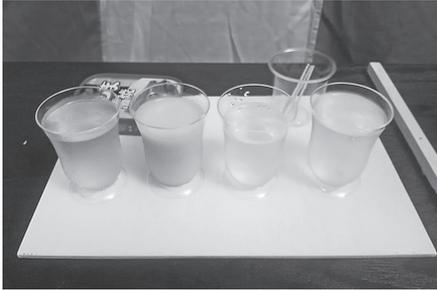


図3 購入した日本酒4種類。90 mlのプラスチックカップで提供された

左から、

- ・秘蔵古酒（平成 18BY）
- ・酒蔵の麴あまざけ
- ・純米吟醸生原酒 210 日熟成
- ・純米大吟醸

である。つまみとして秋刀魚の缶詰も購入した。周りを見渡すと、1人で全種類購入した猛者もちらほら見える。やはりこういったイベントにはうわばみが現れるのだろう。それでいて誰一人酔いつぶれていないのだから、皆それなりに大人である。

さて、早速吞んでいこう。古酒というものは初めて吞んだのだが、紹興酒のような味がある。ノンアルコールのあまざけは、ほんのりとした甘みがあり、大変美味しい。純米吟醸生原酒は原酒とは思えない口当たりの軽さで、ぐいぐいと吞んでしまいそうである。純米大吟醸は辛口ですっきりした味わいである。私は日本酒の味に関する語彙が豊富ではないので、ぜひご自身で味わってみてほしい。販売所の横には、熱燗をつける場所もあった。気温が30°Cを超える環境では、さすがに試す気持ちにはならな

かったが、「春鹿超辛口」あたりをつけると、おでんのお供に最適だろう。

まったりと呑み終わった後には、酒蔵見学に行った。9月は仕込みが終わった時期なので、機械の中は空っぽだ。米を蒸す機械の見学や、水を張ったタンクで糶入れ（清酒を混ぜる作業）の体験などができた。意外とこじんまりとした所で酒を作っている、という印象である。酒蔵見学の後は、もう一度日本酒販売所へ並ぶことは堪えて、酒蔵SHOPの方へ行った。狙っていたひやおろしの4合瓶は完売していたので、代わりに春鹿グッズを購入して、酒蔵を後にした。

～*～*～*～

まつりに行ってみたいが、来年まで待てない方に朗報である。通常時でも醸造元で試飲ができるのである。季節によって異なる5種類の日本酒が、500円で試飲できる。酒蔵が目の前にあるので、冷蔵保存が必要でなかなか出回らない生酒を試せるのがありがたい。生酒は発酵が止まっていないまま瓶詰めされており、瓶を開ける際には吹き出しやすいので、こういったプロのいる所で飲むのが良さそうである。試飲した日本酒は全て酒蔵SHOPで購入可能である。また、おつまみとして奈良漬もいただける。燻製の奈良漬が大変美味しく、これも酒蔵SHOPで購入できる。酒蔵まつりとは別の日に私が訪れた際には、令和記念の特別原酒が出されていた。

使用した梨地のガラスのお猪口は持ち帰ることができる。色は無色透明、藤色、桜色、水色の4色があるので、集めてみるのも楽しいだろう。呑み終わったらお猪口の底を覗いてみてほしい。そこに鹿の模様がある。奈良はいたる所に鹿がいるが、こんな所にも鹿がいる。

～*～*～*～

ほろ酔いである。まったりとした良い気分のまま家に帰ろう。ああ、くれぐれも、酔って帰り道に猿沢池に落ちないように。